令和７（２０２５）年度５月「歳時記」

今月は中学校１年生の教科書にある「竹取物語」です。昔話でもなじみが深い「かぐや姫」の物語です。

＜古文＞

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむ言ひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

＜現代語（口語）訳＞

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前をさぬきの造と言った。

その竹の中に根本が光る竹が一本あった。不思議に思って近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人がまことにかわいらしい様子で座っていた。

「竹取物語」は作者不明ですが、平安時代の９１０年以前に成立したと考えられています。紫式部が「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」としているように、仮名で書かれた日本最古の物語で、人間の真の姿が描かれています。

今回は冒頭の部分です。子どもは翁と媼によって大切に育てられ、たった三か月ほどで輝くばかりに美しい大人に成長しました。その評判を聞いて、多

くの人が求婚します。かぐや姫は、なかでも熱心な五人の貴公子の求婚を断り切れず、望みの品を持ってきた人と結婚すると、それぞれに難題を出しました。五人の求婚者たちは、知恵や財産を投じて難題に挑みます。続きは次回に掲載します。

今回から練習問題を付けます。中学生・高校生を始め、皆さんぜひチャレンジしてみてください。

＊練習問題

1　波下線部「いふ」「よろづ」「ゐたり」を現代仮名遣いに直して書きましょう。

2　波下線部「あやしがりて」の理由を書きましょう。

3　波下線部「それ」が指しているものを、古文から三字で見つけて書きましょう。

＜解答例＞

1　いう　よろず　いたり

2　根元の光る竹が一本あったから

3　筒の中

安芸太田町教育委員会　教育長　大野　正人